

台風被害の復旧に大きく尽力 派遣職員離任式



令和元年東日本台風被害の復旧に尽力し、3月末で離任した派遣職員3人の離任式が3月27日、市役所で開かれました。

離任するのは、令和元年東日本台風などで被害を受けた本市の復旧作業を支援するために派遣された和田尚之さん（熊本県熊本市）、田中洋輔さん（新潟県三条市）、竹谷正博さん（愛知県一宮市）の3人。

離任する職員を代表し和田さんが「大変な業務ではあったが、災害査定などの業務をとおして多くの経験を積むことができた。今後も災害が起きたときにはお互いに助け合っていきたい」とあいさつし、立谷市長は「相馬市が非常に苦しいときにご支援いただきありがとうございました。災害対応を経験したということが、皆さんのこれからの公務員人生に役立つことを期待しています」と地元自治体を離れ相馬の復旧に尽力いただいたことに感謝を述べました。

式の後には市の職員などに見送られ、それぞれの自治体への帰路に就きました。

台風被害の復旧業務に力強い支援

派遣職員の着任式は4月1日、市役所で行われ、6人の派遣職員に辞令が手渡されました。

立谷市長は派遣元の各自治体に感謝の意を表しながら「復旧へのご支援ありがとうございます。皆さんにとって相馬市への派遣期間が有意義であったらと思うてもらえるようサポートしていきます」と述べました。

令和2年度は、次の6人の派遣職員の協力を得て、令和

元年東日本台風被害などの復旧事業を進めます。

▽前山智洗さん（新潟県三条市・農林水産課）

▽菊池剛馬さん（東京都稲城市・土木課）

▽本美大輔さん（神奈川県小田原市・土木課）

▽宇野純一さん（福井県大野市・農林水産課）

▽深澤優希さん（愛媛県西条市・農林水産課）

▽水田哲朗さん（熊本県熊本市・土木課）

派遣職員着任式



霜から農作物を守る

市は4月1日、立谷市長を本部長とする市防霜対策本部を設置しました。

市役所玄関に立谷市長と伊東充幸産業部長が看板を設置。当本部は、降霜による農作物の被害を最小限に食い止めるため、霜注意報が発令された際に、農家に注意喚起をします。

この時期、市内では特にナシなどの果樹に注意が必要で、当本部は5月末まで開設します。

防霜対策本部を設置



茄子小田橋の早期復旧を要望

塩手山山開き実行委員会

茄子小田橋（山上）の早期復旧および強靱（きょうじん）化に関する要望書の提出は3月16日、市役所で行われ、塩手山山開き実行委員会の5人が市長に要望書を手渡ししました。

令和元年東日本台風の大雨で橋りょうが流出し、現在も通行止めになっている茄子小田橋の早期復旧と、道幅の拡張による強靱化を求めるもの。要望書を受け取った立谷市長は「早期復旧に取り組みたい」と述べました。



震災前の姿を後世に伝える

ジオラマ展示



制作が実現しました。

完成したジオラマは縦1メートル、横2メートルの大きさで、施設の場所などを示すプレートとの設置や一部の屋根の色塗り、船や家屋などの模型設置は地域住民によって行われました。

ジオラマ披露に先立って行われた除幕式で、宇佐見清企画政策部長があいさつし、安達利郎東部再起の会長は「震災前の街並みをジオラマとして再現したことで、震災前の記憶をつないでいきたい。子どもたちなど多くの皆さんにジオラマを見てもらい、未来への教訓と減災につながってほしい」と述べました。

東日本大震災前の原釜・尾浜地区の街並みを再現したジオラマの展示は3月26日、市伝承鎮魂祈念館で行われ、地区住民ら約50人が訪れました。

ジオラマ制作は、東日本大震災で600戸以上の家屋が全壊した原釜・尾浜地区を再現し、震災の記憶を伝承するため、同地区で被災した方により立ち上げられた東部再起の会、相馬双葉漁業協同組合、東部区長会が市へ連名で要望。

昨年の秋ごろから10回程度のワークショップを開催し、住民の意見を取り入れながら

話を聴いた市民らは当時の記憶をより鮮明に思い出していました。

馬陵公園をやさしく照らす

ぼんぼり点灯式



相馬桜まつりのぼんぼり点灯式は3月24日、馬陵公園で行われ、関係者20人が出席し

ました。

主催者の草野清貴相馬桜まつり実行委員会実行委員長は「満開に桜が咲いた中村神社や涼ヶ岡八幡神社などで観光をPRしていきたい」とあいさつし、佐藤憲男副市長が祝辞を述べました。

草野会長ら5人が出席者を代表し、ぼんぼりを点灯させるスイッチを押すと、馬陵公園に設置されたぼんぼり182本が一斉に点灯し、辺りをやさしく照らししました。

常磐線全線再開を記念

常磐線のレールを贈呈

JR常磐線のレールを加工した額装作品の贈呈は3月27日、市役所で行われ、鈴木浩原ノ町駅長と木幡哲也原ノ町駅副駅長が訪れました。

作品は、東日本大震災を経

てもゆがんだり曲がったりせず、JR常磐線浪江・新地間で用いられていたレールが2018年に取り外されたことから、そのレールを11ミリ幅に裁断して研磨し、額装したもので、JR東日本と県立テクノアカデミー浜が共同で制

作したものです。

作品を受け取った立谷市長は感謝の言葉を述べました。



涼ヶ岡八幡神社の魅力をPR

市観光協会



JR東日本常磐線全線運転再開特別企画展「涼ヶ岡八幡神社さくら展」の開催式は3月20日、千客万来館で行われ、関係者8人が出席しました。

開催式で、主催者の草野清貴市観光協会会長は「桜の美しい季節に多くの人に本市に来てもらいたい」と述べ、遠藤盛男同神社宮司があいさつしました。

千客万来館ロビーには、同神社の写真や映像、市観光協会が主催した「相馬の桜フォトコンテスト」出展作品などが展示され、遠藤政弘同神社禰宜（ねぎ）による展示物紹介が行われました。

本格的なシーズンを迎える 青ノリ漁

相馬双葉漁業協同組合の青ノリの出荷作業は3月17日、尾浜地区にある同組合漁具倉庫で行われ、カゴいっぱい詰められた青ノリが次々に運び込まれました。

当日は、13人の生産者が朝に収穫した合計752キログラムの青ノリを出荷。

山下博行同組合理事は「大雨や温暖化の影響でノリの生育が遅れ、例年より収穫量も減ってしまったが、ようやく本格的なシーズンを迎えることができた。震災を乗り越えてきた力で、くじけずに生産していきたい」と、本格化した青ノリ漁への意気込みを述べました。



交流人口の拡大に期待 スポーツアリーナそうま 第二体育館落成式



スポーツアリーナそうま第二体育館落成式は4月4日、同体育館内で行われ、関係者約40人が出席し、体育館の落成を祝いました。

第二体育館は、スポーツアリーナそうまで大規模大会を開催することによって交流人口を拡大することを目的に建設。

立谷市長は「市の将来を担う施設として建設しました。今後の市民生活と市政発展に役立てたい」と式辞を述べました。

施工業者の植村賢二株式会社小野中村代表取締役から立谷市長に鍵が引き渡され、植村代表取締役と設計などを行った吉田優株式会社山口建築設計事務所代表取締役、三浦康伸東海クレテック株式会社代表取締役社長に立谷市長から感謝状が贈呈されました。

立谷市長ら7人によるテープカットが行われ、第二体育館は同日から利用を開始しています。



地域の安全と安心を守る 市消防団員辞令交付式

令和2年度の市消防団員辞令交付式は4月3日、市役所で行われ22人の新入団員が辞令の交付を受けました。

第7分団の村上紘一さんの新入団員宣誓のあと、山田行雄消防団長は「消防団は地域の人々の安心、安全を守る使命がある」、立谷市長が「崇高な郷土愛、誇りをもって職務にあたってほしい」とそれぞれ訓示を述べました。

階級変更による新たな分団長や副分団長が辞令の交付を受け、防災の意識を新たに

しました。

市消防団は4月1日現在、団員506人。地域の安全安心に貢献しています。



黄色い帽子で交通安全 新入学児童にランドセルカバーなどを贈呈



市、相馬地区交通安全協会、日本コープ共済生活協同組合

連合会は4月6日、新入学児童にランドセルカバー、腕章、黄色い帽子を贈りました。

贈呈式は市役所で行われ、荒貞昭相馬地区交通安全協会長がランドセルカバーを、七海暢一相馬警察署長が腕章を、立谷市長が黄色い帽子を新入学児童代表として出席した八幡小学校の渡部勝弘さんと大川華奈さんに手渡しました。

黄色い帽子などを受け取った児童たちは、大きな声でお礼を述べました。